

1.1. 小児科 臨床研修プログラム (必修科)

1. 研修目標

成長期にある小児の精神的・身体的な健康上の問題を全人的に把握できる能力を身につける。

2. 研修期間 4週～44週

(ただし4週の場合は全領域の研修は出来ないため、新生児を除く小児一般疾患を主に研修する)

3. プログラム指導者と参加施設

プログラム指導者 小児科 増江 道哉
基幹病院 中部国際医療センター

4. 到達目標

1) 小児科における基礎的診察法の修得

- 病歴の聴取、トリアージ
- 視診、聴診、触診、舌圧子による診察法

2) 小児疾患の診断と治療の理解

- 小児一般疾患（気道感染症、ぜんそく、胃腸炎など）の診断と治療が出来る。
- 不明熱、紹介患者など原因不明の疾患の診断のための計画が考えられる。
- 小児救急の症候別（呼吸困難、痙攣など）対処法が実施出来る。
- 短時間で適切な症例提示が出来る。
- 稀な疾患や複雑な病態を理解できる。（2年次）

3) 小児科の基本的検査の適応と理解

- 血液・尿検査
- 放射線・生理検査（レントゲン、CT、MRI、心電図、脳波、エコーなど）

4) 小児科の基本的手技の修得

- 採血
- 注射・点滴
- 専門手技の原理と適応、および指導医の監督下での一部実施を習得する。（2年次）

5) 健診・予防接種の理解と実施方法の修得

- 健診・予防接種の意義について説明できる
- 健診・予防接種を適切な方法で施行できる
- 予防接種の副作用について説明できる

5. 指導体制

研修医は、常に上級医のもとで行動することを原則とする。特に危険を伴うと考えられる検査、処置は担当上級医の指導下で実施する。

救急患者が搬入されたときは、出来るだけその初期診療から関係を持ち診療する。

6. 方略

- 指導医とともに小児科入院患者を受け持ち、診断、治療計画の立案、経過観察、退院支援を行う。
- 指導医の外来診療に同席し、問診、身体診察、検査オーダー、診断、治療方針決定のプロセスを学ぶ。外来実習では、見学から初診患者の診察、入院した場合は受け持ち患者となる。

3. 病歴の聴取、トリアージ、視診、聴診、触診、舌圧子による診察法を習得する。
4. 小児一般疾患（気道感染症、ぜんそく、胃腸炎など）の診断と治療、不明熱や原因不明の疾患の診断計画、小児救急の症候別（呼吸困難、痙攣など）対処法を習得する。
5. 血液・尿検査、放射線・生理検査（レントゲン、CT、MRI、心電図、脳波、エコーなど）の適応と理解を深める。
6. 受け持ち患者の病棟回診を行う。病棟処置・外来処置（採血、点滴など）を行う。

7. 評価

指導医は、自己評価結果を隨時点検し、研修医の到達目標を援助する。

8. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 外来見学・処置	病棟回診 外来見学・処置	病棟回診 外来見学・処置	病棟回診 外来見学・処置	病棟回診 外来見学・処置
午後	病棟回診 救急患者診療	病棟回診 救急患者診療	病棟回診 救急患者診療	病棟回診 救急患者診療	病棟回診 救急患者診療
夕	毎日 16：45～17 時は、入院患者診断治療検討会（主治医プレゼンテーション） 毎週月曜日は、17 時から退院患者と相談したい症例のカンファレンス 毎月最終月曜日は、17 時から小児科勉強会				

※毎週土曜日は小児科紹介患者と入院が最も多いので、土曜日出勤して平日 1 日を休日にした研修も可。

※研修医の希望があれば、専門外来指導やレクチャーなど希望に沿った研修を行う。